

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 447 号 平成 24 年 12 月 3 日

なせばなる

為せば成る、為さねばならぬ何事も、

ならぬは人の為さぬなりけり

これは、米沢藩の藩主上杉鷹山の言葉と伝えられているものです。私は、今年の全国学力学習状況調査の結果を見ながら、思わず鷹山の冒頭の言葉を思い浮かべました。

今年の学力学習状況調査の結果については、残念ながら、これまでの状況が一変して素晴らしい成績だったという訳ではありません。むしろ、厳しい状況が続いているといった方が良いと思っています。それでも、今回の調査の結果からは、この数年間にわたる取り組みの成果が見え始めたかなと感じています。

これまで、子ども達の学力問題については、さまざま批判をされて来ましたが、「北海道も、やればできる」という事を予感させてくれています。

北海道教育委員会は 11 月、今年 4 月に実施した全国学力・学習状況調査の結果を発表しました。

それによると、調査に参加したのは、抽出校 459 校、希望参加校 1100 校の 1559 校ですが、札幌市については今年も、希望参加校がありませんでしたので、悉皆調査にはなっていません。

さて、肝心の正答率ですが、小学校、中学校共に下表の通りとなっています。

◎小学校

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
北海道	77.4	51.1	68.7	54.3	58.6
全 国	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
差	- 4.2	- 4.5	- 4.6	- 4.4	- 2.3
H23 差	-4.3	-6.6	-7.0	-5.5	

◎中学校

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
北海道	74.0	63.7	60.0	46.9	50.3
全 国	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0
差	- 1.1	0.4	- 2.1	- 2.4	- 0.7
H23 差	-0.9	-4.1	-3.7	-4.2	

この表を見ても分かるように、10教科中9教科で全国平均を下回っており、深刻な状況にあることは変わっておりません。それでも、昨年と比較すると学力の格差は縮小しており、更に、今回初めて中学校国語B（活用）が全国平均を上回る結果となっていますので、そういう意味では、これまでの取り組みの成果が見られると良いと思います。

勿論、飽くまでも改善の兆しが仄かに見えるという程度のレベルですし、秋田県には大きく水を空けられてる事には変わりありませんが、それでも、道教委が「平成26年度の全国調査までに、学力を全国平均以上にする」事を目標に取り組みを進めて来た結果だと、率直に受け止めています。

ただ、教育局管内ごとの状況を見ると地域差が相当にありますので、それぞれの地域においては、市町村教育委員会や学校が連携しながら、具体的な目標を設定し、更なる取り組みを期待したいと思います。その意味では、釧路市教育委員会が、去る11月、「学力調査については2013年度から5年間で全道平均を上回る」という事を柱にした「釧路市教育推進基本計画」の素案を公表しました事は評価して良いでしょう。

学校に対する質問紙調査の結果を見ると、朝読書の取り組み、放課後や長期休業期間中を利用させた学習サポートなどについては取り組みが広がって来ているように感じますが、全国の状況を見ると、習熟度別の指導や宿題を与えたり、宿題に対する評価・指導など、よりきめ細かな学習支援について更に工夫する余地があるように思います。

「なせばなる」です。各市町村教育委員会や学校においては、まずは、子ども達の学力はどういう状況にあるのか現状をしっかりと押さえ、課題や危機感を共有しながら、具体的な目標に向かって取り組みを進めていただく事を期待しています。

（塾頭：吉田 洋一）